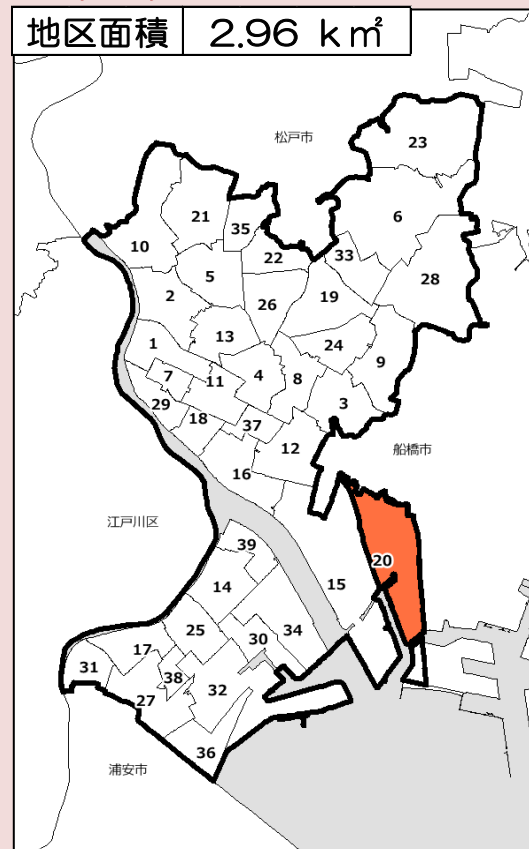


## 20 二俣小学校区

### (1) 位置



### (2) 地区概況

#### ◆位置

二俣小学校区は市の南東部に位置し、地区の東側は船橋市に隣接しています。地区の西側は真間川に面しています。

#### ◆地形・土地利用

地形は、主に埋立地・盛土地で構成され、平坦な低地となっています。

地区の南側は工業専用地域、準工業地域となっており、多数の工場が立地するほか、交通の便が良い立地を活かした物流拠点となっています。

#### ◆都市基盤

地区の北側を東西にかけて京葉道路が通っており、原木ICがあります。中央を東西にかけて東関東自動車道が通っています。

また、地区内には京葉線が通っており、南側に二俣新町駅、地区外の北側に西船橋駅が近接しています。

### (3) 人口・建物概況

#### ◆人口

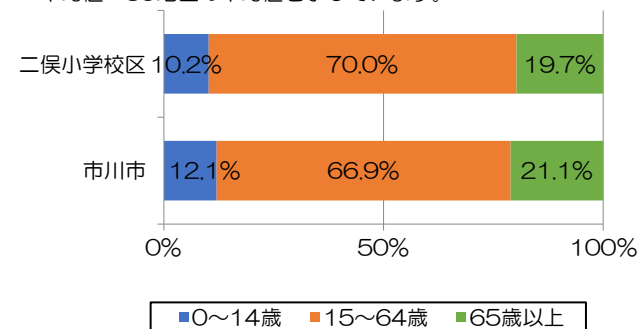
##### 年齢別割合

|      | 二俣小学校区 | 市川市      | 割合※  |
|------|--------|----------|------|
| 人口総数 | 8,190人 | 487,621人 | 1.7% |

※割合：市全体の総数に対する地区総数の割合

平均値 12,503人

平均値：39地区の平均値を示しています。



#### ◆建物

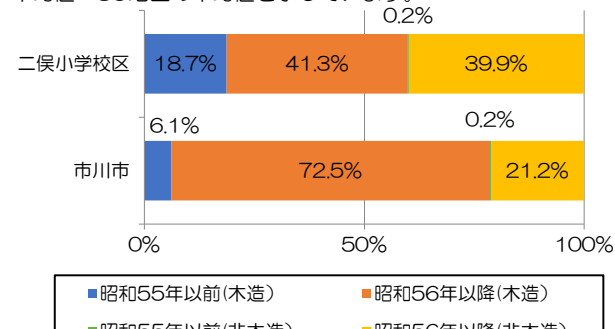
##### 構造別割合

|      | 二俣小学校区  | 市川市       | 割合※  |
|------|---------|-----------|------|
| 建物総数 | 2,050 棟 | 114,958 棟 | 1.8% |

※割合：市全体の総数に対する地区総数の割合

平均値 2,948棟

平均値：39地区の平均値を示しています。



地区の人口は、全地区の平均人口より少ないです。また、市全体と比較すると15～64歳の割合がやや高く、若い世代がやや多い地区となっています。

地区の建物は、全地区の平均棟数よりやや少ないです。市全体と比較すると昭和56年以降の新耐震基準の建物割合が低いです。また、非木造建物が多い地区となっています。

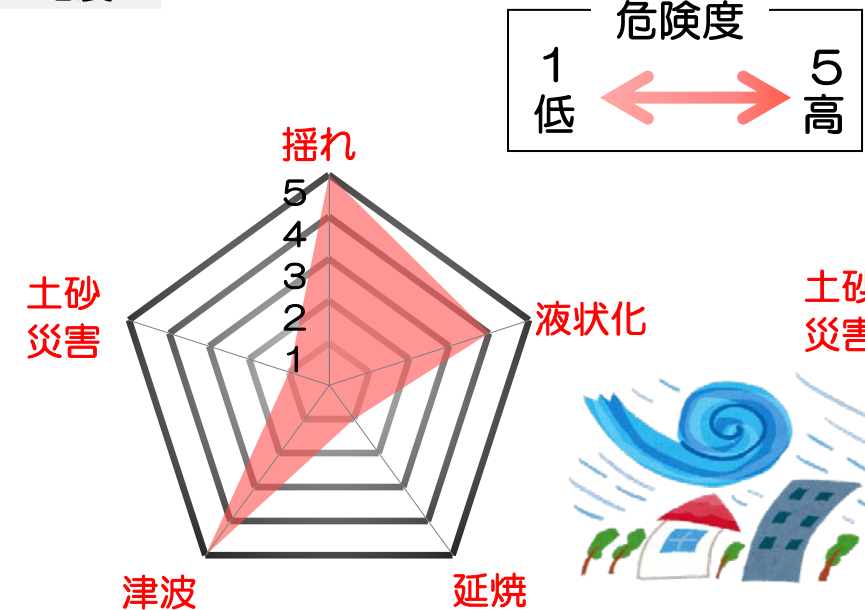
### (4) 災害リスク評価

市川市防災カルテ < 二俣小学校区 >

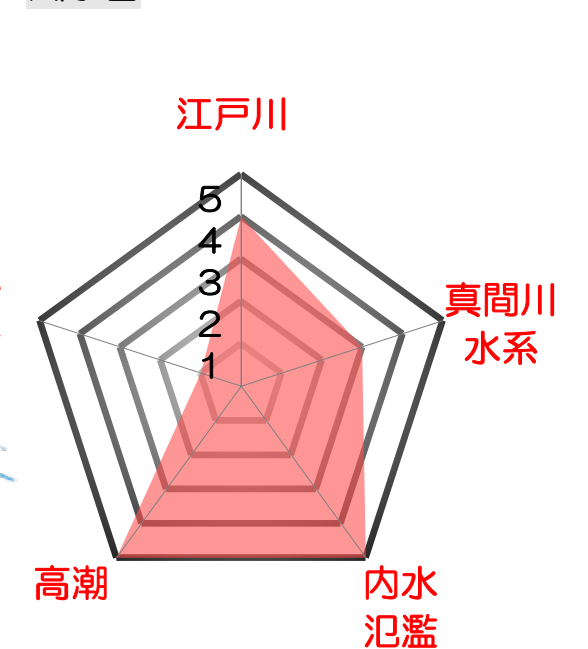
災害に対する弱み（マイナス）については、5に近づくほど危険度が高くなり、災害に対する強み（プラス面）については、5に近づくほど安全度や充足度が高くなります。災害リスクは、後述の地震被害想定や浸水想定の結果、各地区の現況データを用いて相対的に評価しています。なお、危険性がない場合でも1となります。

#### ◆災害に対する弱み（マイナス面）

##### 地震

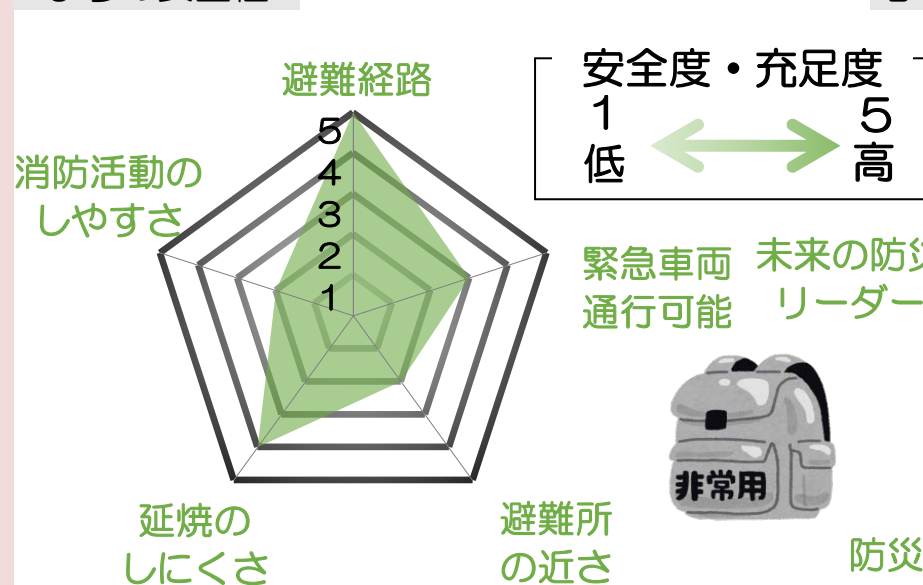


##### 風水害



#### ◆災害に対する強み（プラス面）

##### まちの安全性



##### 地域の防災力



#### ◆評価

二俣小学校区は、地震災害については、最大震度6強の揺れが予測され、揺れや液状化、工業地域における津波の危険性が高い傾向にあります。また、風水害については、近くに江戸川が流れていることから、江戸川の氾濫による浸水の危険性、低地であることから内水氾濫の危険性、東京湾に面していることから、高潮の危険性が高い傾向にあります。

一方で、まちの安全性については、避難経路が高い傾向にあるものの、避難場所の近さや消防活動のしやすさは比較的低い傾向にあります。また、地域の防災力については、防災組織力は高い傾向にあるものの、防災活動力は低い傾向にあります。

## (5) 防災関連施設

### ◆避難所及び福祉避難所

| 施設名        | 福祉避難所 | 施設名 | 屋内面積 |
|------------|-------|-----|------|
| 二俣小学校      | -     |     |      |
| ホワイト市川（別館） | ○     |     |      |
|            |       |     |      |
|            |       |     |      |
|            |       |     |      |
|            |       |     |      |
|            |       |     |      |
|            |       |     |      |

### ◆避難場所

| 名称           |
|--------------|
| 二俣小学校        |
| コーナン市川原木店駐車場 |
|              |
|              |
|              |
|              |
|              |
|              |

### ◆地区内の主な施設

| 種別           | 施設名 | 施設名 | 種別    | 施設名 |
|--------------|-----|-----|-------|-----|
| 要配慮者利用施設（公設） | なし  |     | 医療介護所 | なし  |
|              |     |     | 関連施設  | なし  |
|              |     |     | -     |     |
|              |     |     | -     |     |
|              |     |     | -     |     |

要配慮者利用施設（民設）

1



※要配慮者利用施設は浸水想定区域内に立地する施設を示しています。

## (6) 被害想定結果（地震・風水害）

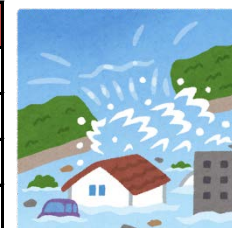
### ◆地震災害（被害を受ける割合）

| 想定項目 |                        | 二俣小学校区 | 市川市全体 |
|------|------------------------|--------|-------|
| 建物被害 | 全壊棟数の割合（揺れ・液状化・急傾斜地崩壊） | 6.1%   | 3.3%  |
|      | 半壊棟数の割合（揺れ・液状化・急傾斜地崩壊） | 18.4%  | 15.6% |
|      | 焼失棟数の割合                | 0.6%   | 5.5%  |
|      | 浸水棟数（津波）の割合            | 0.7%   | 1.0%  |
| 人的被害 | 死者の割合                  | 0.1%   | 0.1%  |
|      | 負傷者の割合                 | 9.2%   | 7.3%  |
|      | 避難者の割合                 | 0.9%   | 0.9%  |



### ◆風水害（被害を受ける割合）

| 想定項目 |              | 二俣小学校区 | 市川市全体 |
|------|--------------|--------|-------|
| 建物被害 | 浸水棟数（江戸川）の割合 | 82.7%  | 52.0% |
|      | 浸水棟数（真間川）の割合 | 0.2%   | 13.6% |
|      | 浸水棟数（内水）の割合  | 63.1%  | 20.5% |
|      | 浸水棟数（高潮）の割合  | 4.0%   | 1.5%  |



市川市全体の結果と比較すると、地震災害については、新耐震基準前の建物が多く、強い揺れや液状化の影響もあり、建物被害は多い傾向にあります。また、人的被害については、死者及び避難者はほぼ同程度ですが、負傷者については、市全体よりやや多くなっています。

一方で、風水害については、江戸川の氾濫、内水氾濫、高潮の影響が大きくなっており、浸水棟数も多くなっています。

## (7) 防災上の課題

市川市防災カルテ < 二俣小学校区 >

| 項目     | 課題                                                                                                                                 |
|--------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 地震     | 地区のほとんどの地域で震度6強の強い揺れが予測され、揺れ及び液状化による危険性が高いことから、耐震対策や家庭での備蓄対策が重要です。また、工業地域においては、津波による浸水の危険性も高いことから、円滑な避難に備えることが重要です。                |
| 風水害    | 地区の近くに江戸川が流れていることによる浸水被害、低地であることから内水氾濫による浸水被害、南側に東京湾が面していることによる高潮浸水被害の恐れもあり、また、過去には道路冠水及び床上・床下浸水が発生していることから、浸水対策や円滑な避難に備えることが重要です。 |
| まちの安全性 | 地区内は、避難施設へのアクセス性が低いことから、あらかじめ避難経路について検討することが重要です。また、水利施設が少ないことから、消防活動の実施体制の整備を行うことが重要です。                                           |
| 地域の防災力 | 地区内では、防災活動力は低いことから、災害発生時に即座に対応できるよう、初期対応や応急復旧活動に対する対策を行うことが重要です。                                                                   |

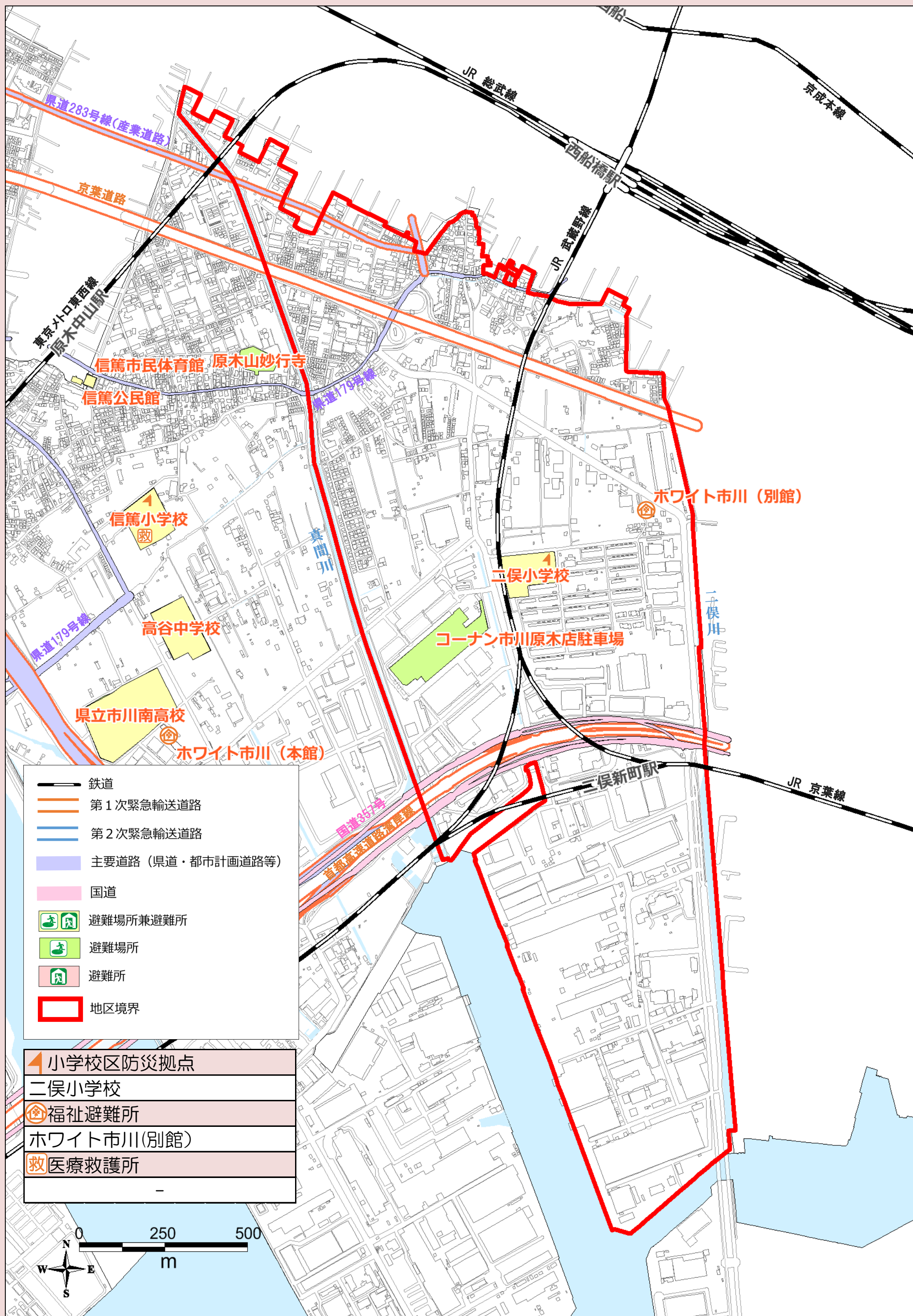
## (8) 防災対策の方向性

| 項目    | 取組の方向性                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 地域の取組 | <p>地区内には、狭い道路があるところもあり、緊急車両が通る道の確保が大切であることから、市の助成制度である「危険コンクリートブロック塀等除却」や「生垣助成」の助成を利用したブロック塀等の倒壊による災害防止と、日頃から安全なルートを確認しておくことが効果的です。</p> <p>また、消防活動に対する対策として、市が実施する避難訓練や消火訓練等に地域ぐるみで積極的に参加することが重要です。地区内の防災リーダーの数が少ないことから、地域で積極的に防災教育のイベント等への参加を行い、地区内の防災リーダーの育成を進めていくことが必要です。</p>                                                                                                                                                                                                                       |
| 個人の取組 | <p>地震に対する備えとしては、市の助成制度である「耐震改修助成制度」を利用した耐震改修工事による自宅の耐震化対策や、「あんしん住宅助成」を利用した感震ブレーカーの設置、家庭内での水や食糧の備蓄をするなど、自宅（家庭）の防災性を向上させることが効果的です。地区内では過去にも液状化による被害を受けていることから、あらかじめ減災マップ等で液状化危険度を確認しておく等の対策が必要です。また、ライフライン途絶に備え、飲料水や食料の備蓄を行っておく必要があります。</p> <p>一方、風水害に対する備えとしては、市の助成制度である「あんしん住宅助成」を利用した防水板の設置、土のうステーション等を利用した土のうの設置による浸水対策や、円滑に避難できるよう市からの情報収集方法や、浸水想定区域外での避難場所等をあらかじめ洪水ハザードマップ等で確認しておくことが効果的です。</p> <p>消防活動のしやすさが低いことから、住宅用消火器を設置する等、初期消火等の対策を行うことが必要です。また、住宅用火災警報器の設置を行う等、火災発生時の逃げ遅れ対策を行うことが重要です。</p> |



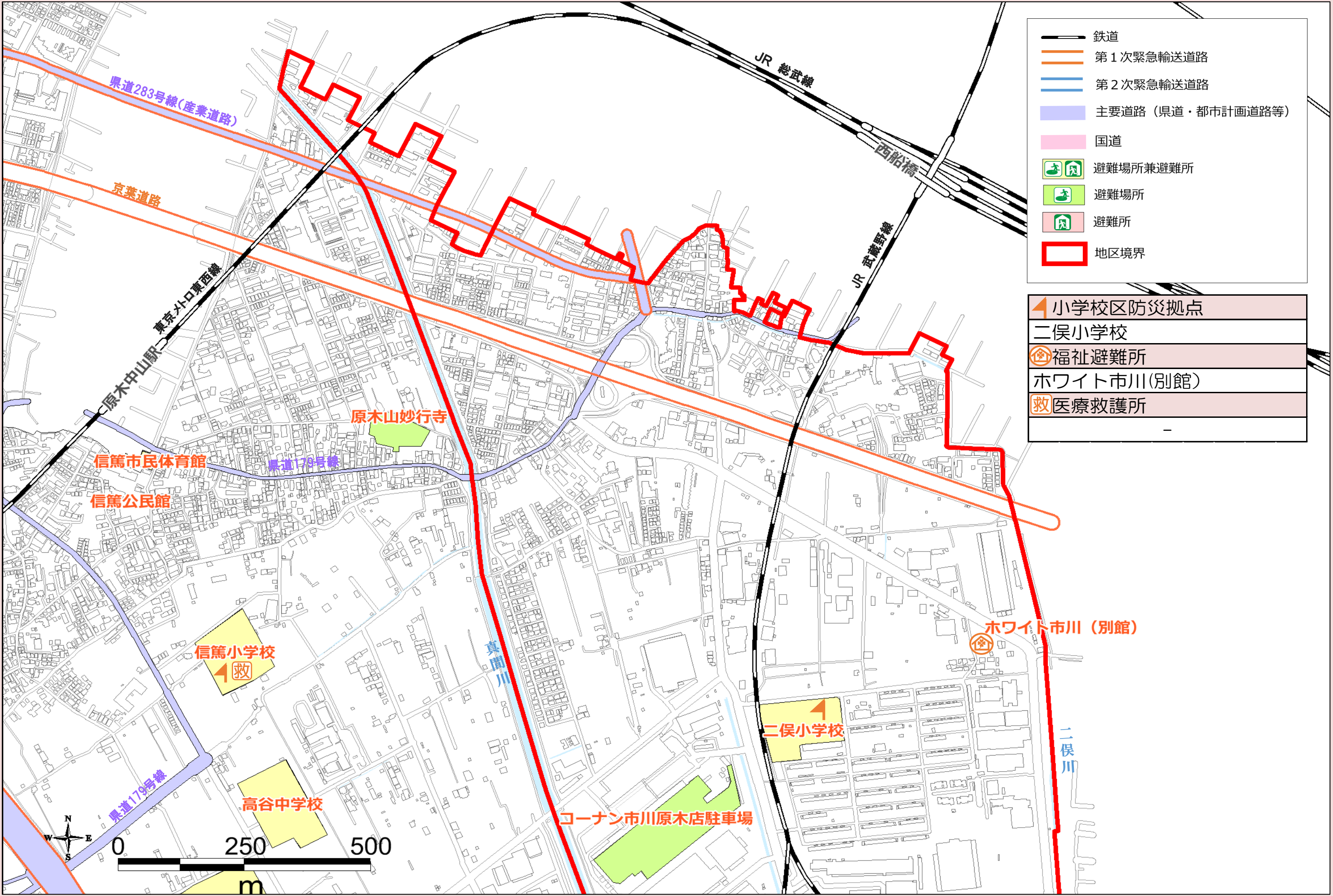
# (9) 防災マップ

市川市防災カルテ < 二俣小学校区 >



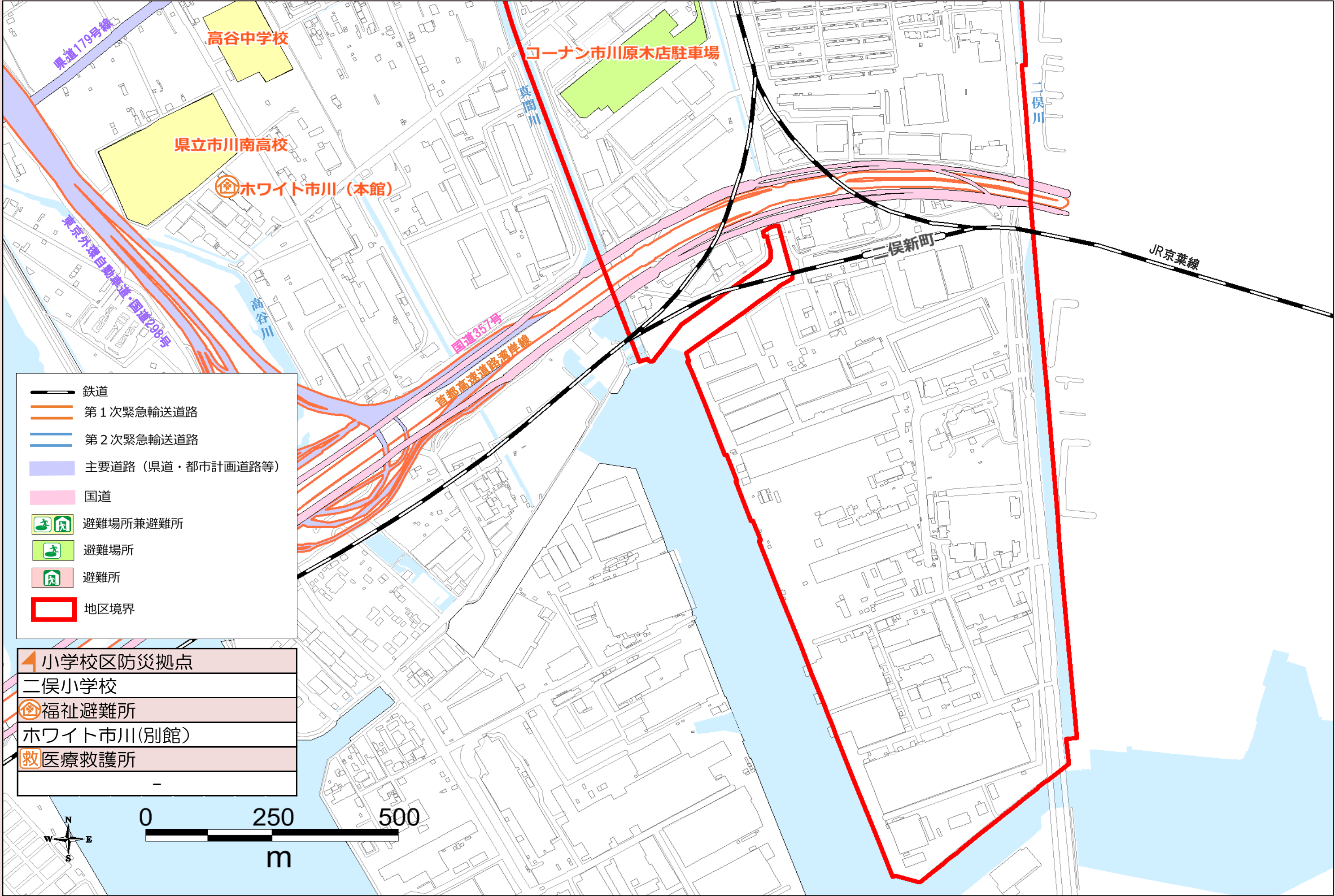


(9) 防災マップ①





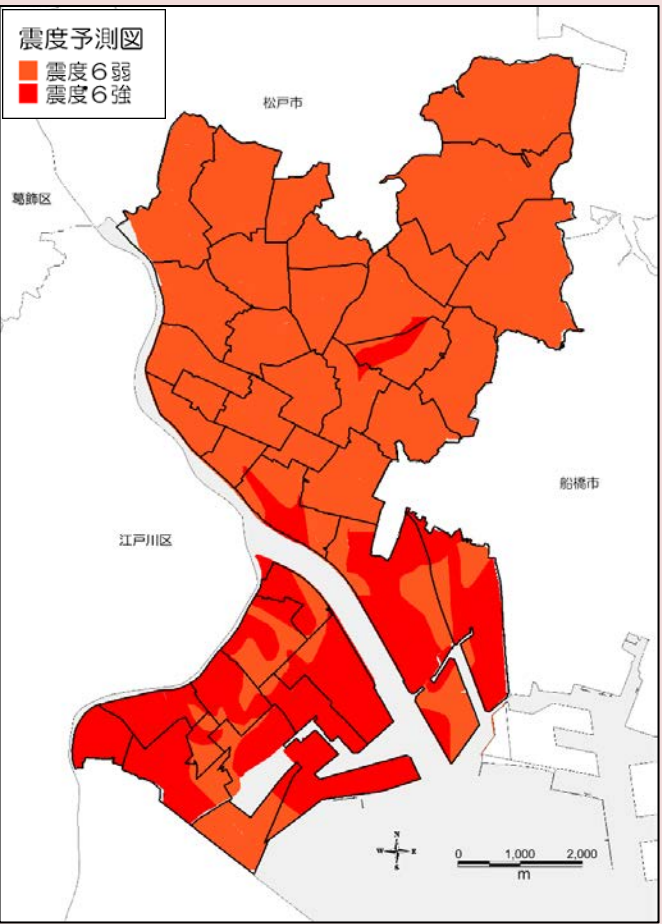
(9) 防災マップ②





(10) 基礎資料

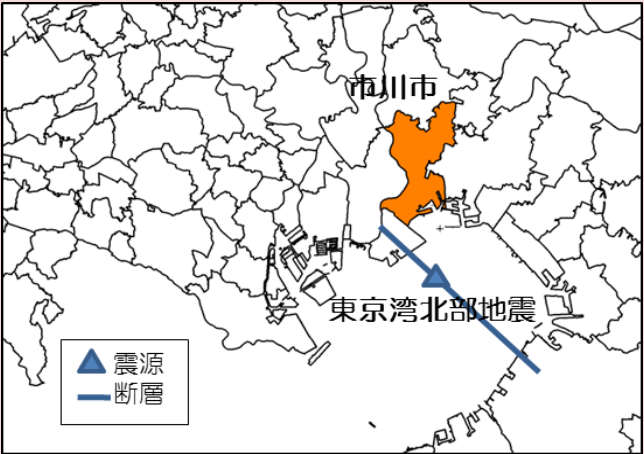
①市全域の震度分布図



本カルテには、東京湾北部を震源域とする地震が発生した場合の結果です。震度分布図を見ると、市の北部は震度6弱、南部は震度6強と予測されています。

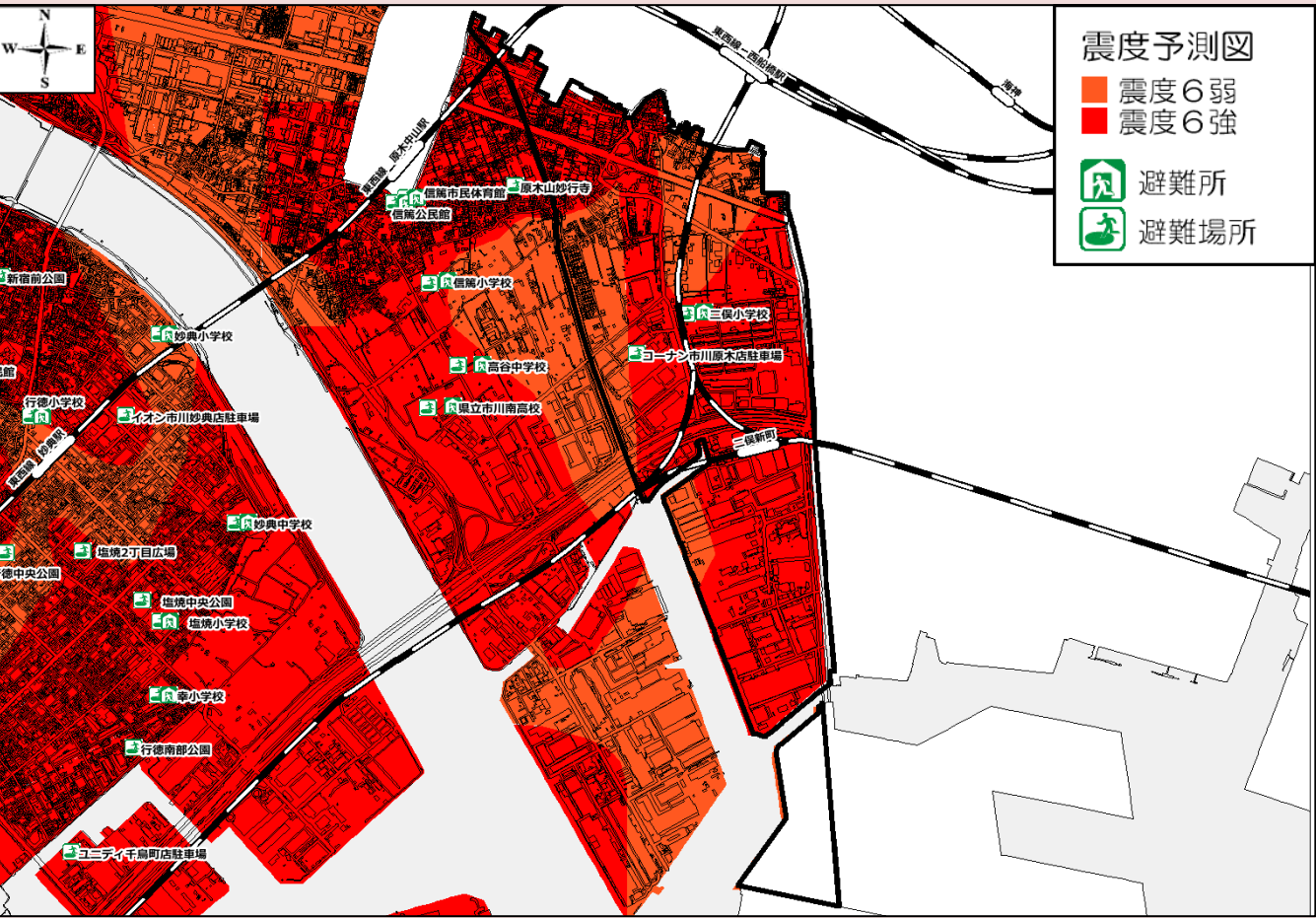
|         |                      |
|---------|----------------------|
| 想定地震    | 東京湾北部地震              |
| マグニチュード | 7.3<br>(震源深さ：20km程度) |

▼震源

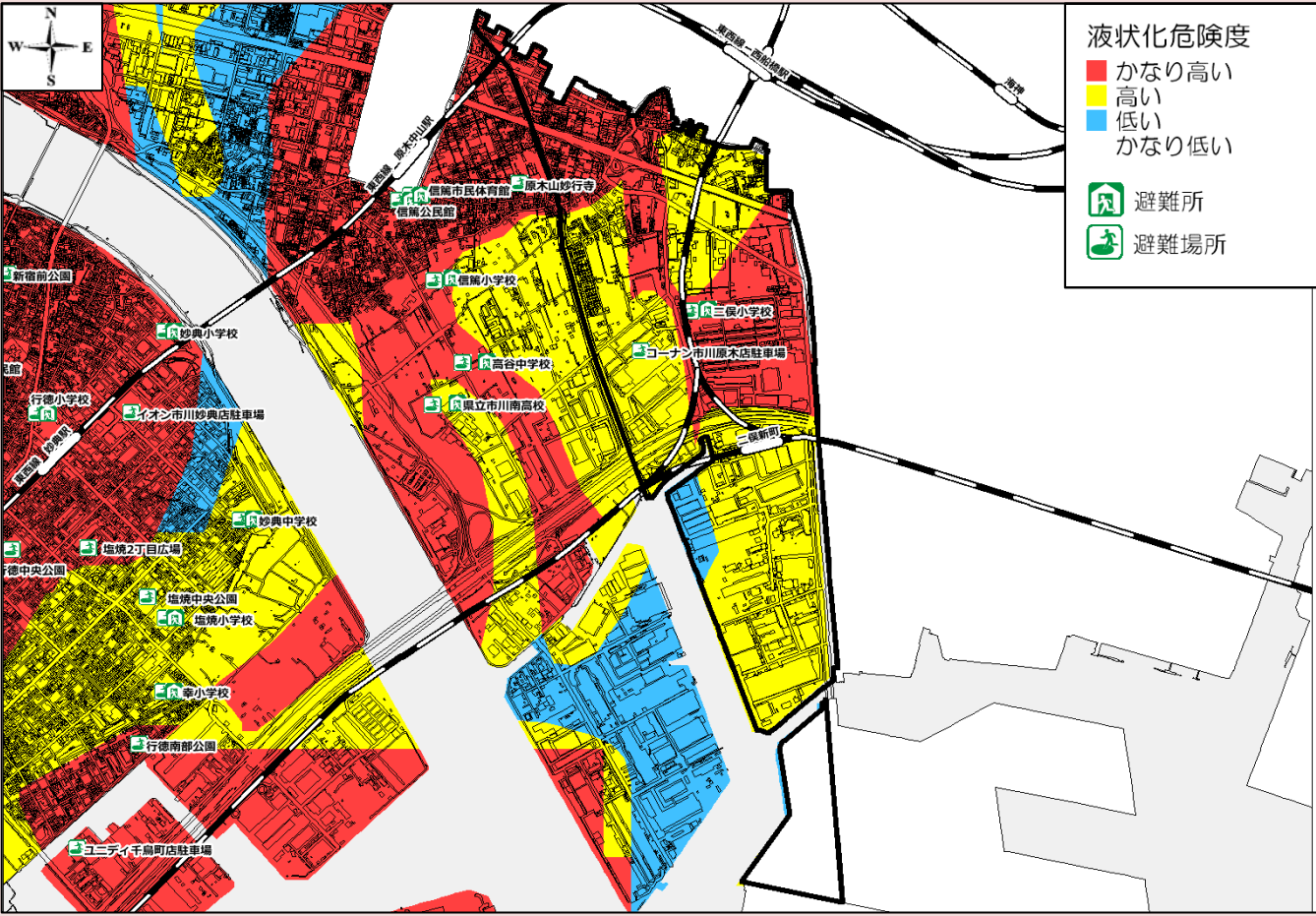


※本結果は市川市地震被害想定結果（平成24年度）に基づいています。

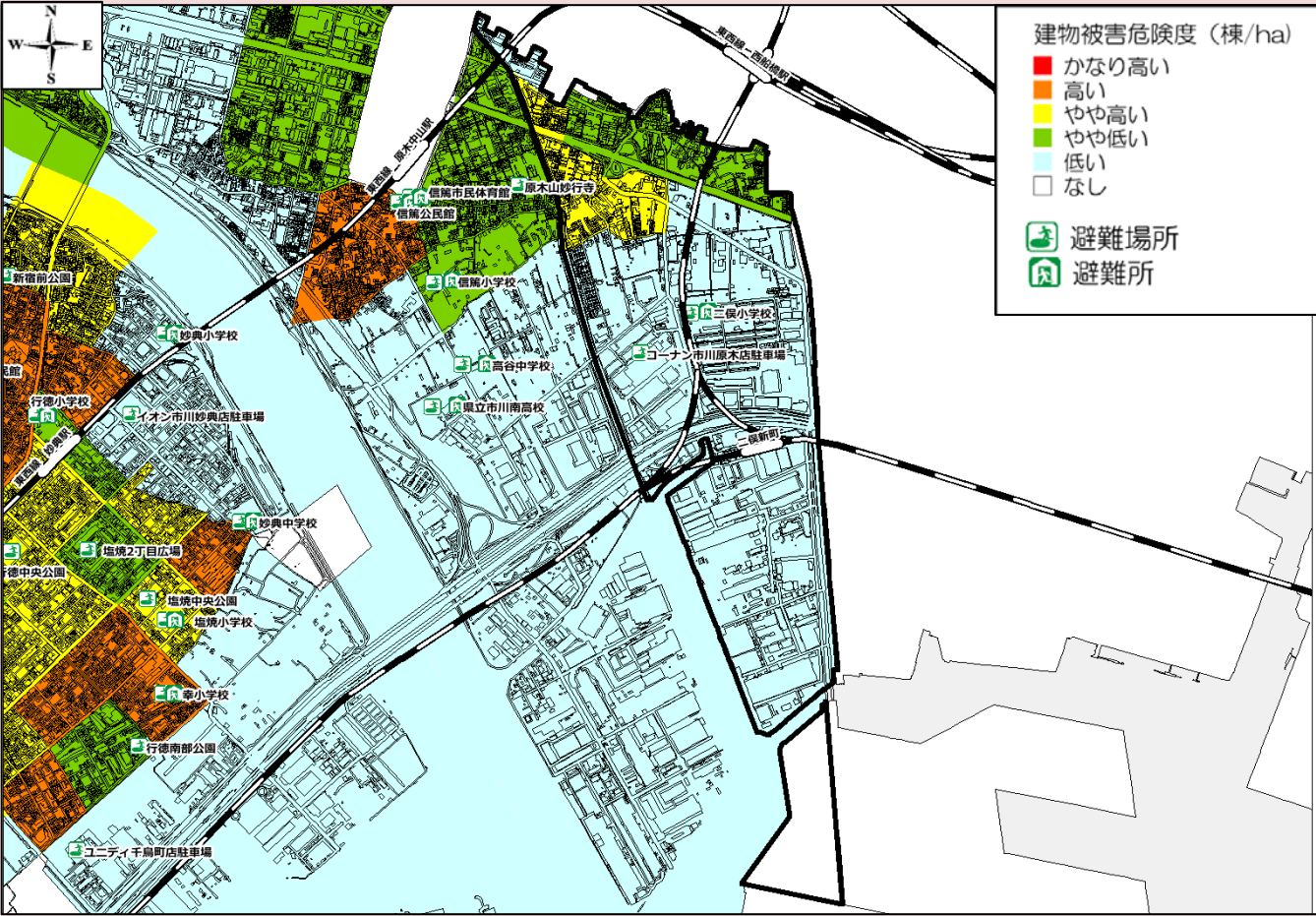
②震度分布図



③液状化危険度

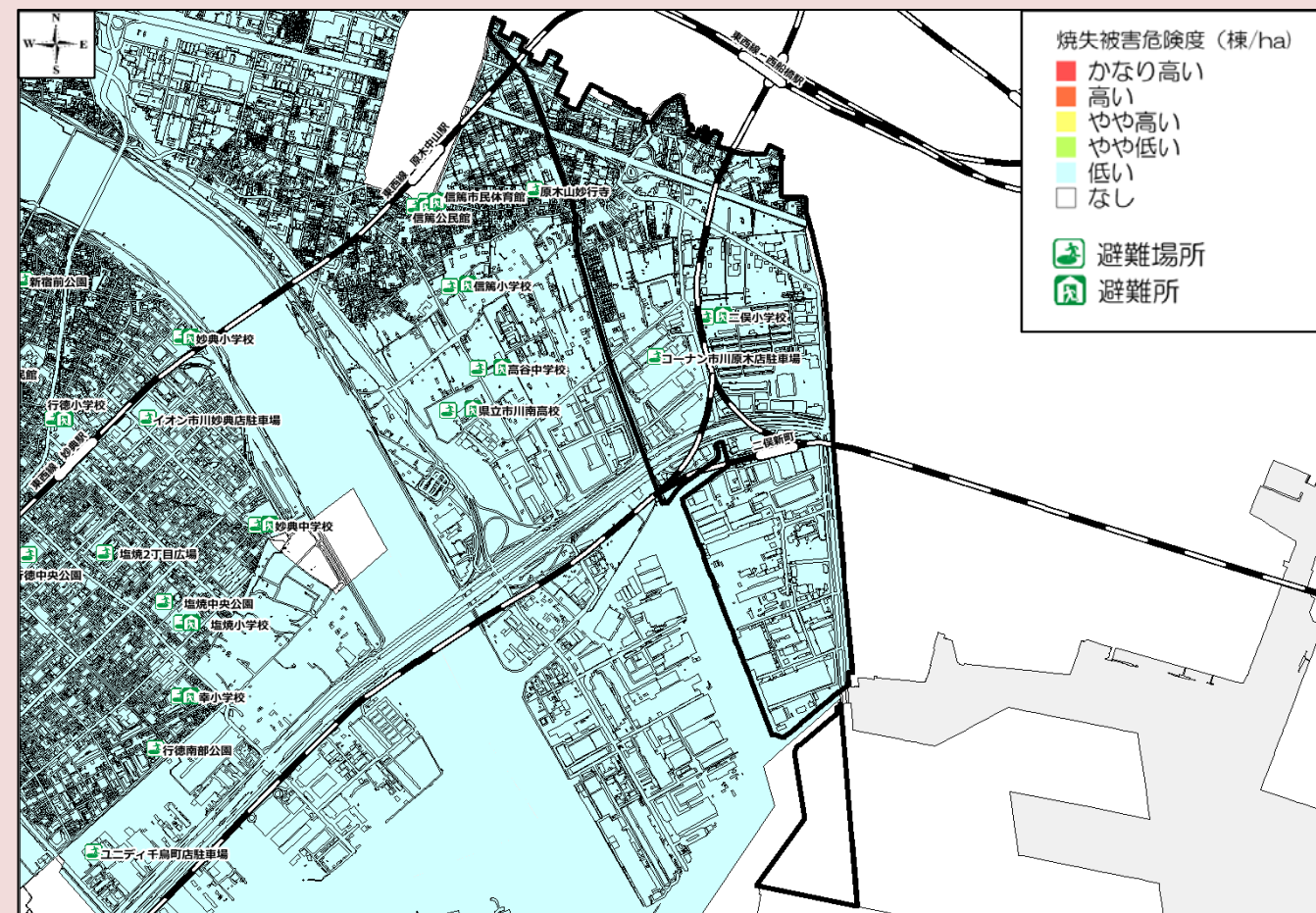


④建物被害（揺れ・液状化による被害）





## ⑤建物被害（延焼による被害）



## ⑦浸水想定の概要

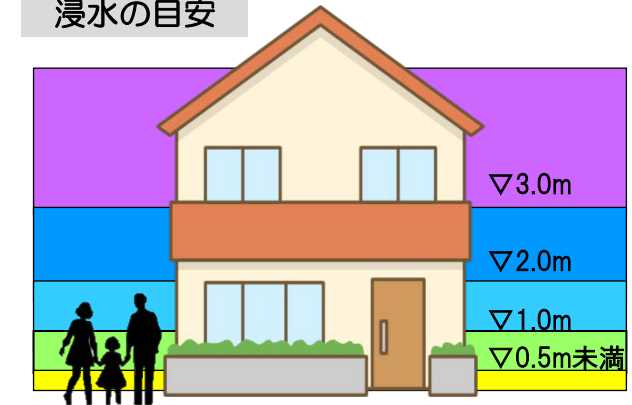
江戸川の氾濫及び真間川の氾濫、内水の氾濫、高潮による浸水想定区域を示しています。災害時にすばやく避難できるようにあらかじめ近隣の避難所及び避難場所について確認しましょう。

また、避難経路上の浸水状況も確認しておきましょう。

## 水の深さ

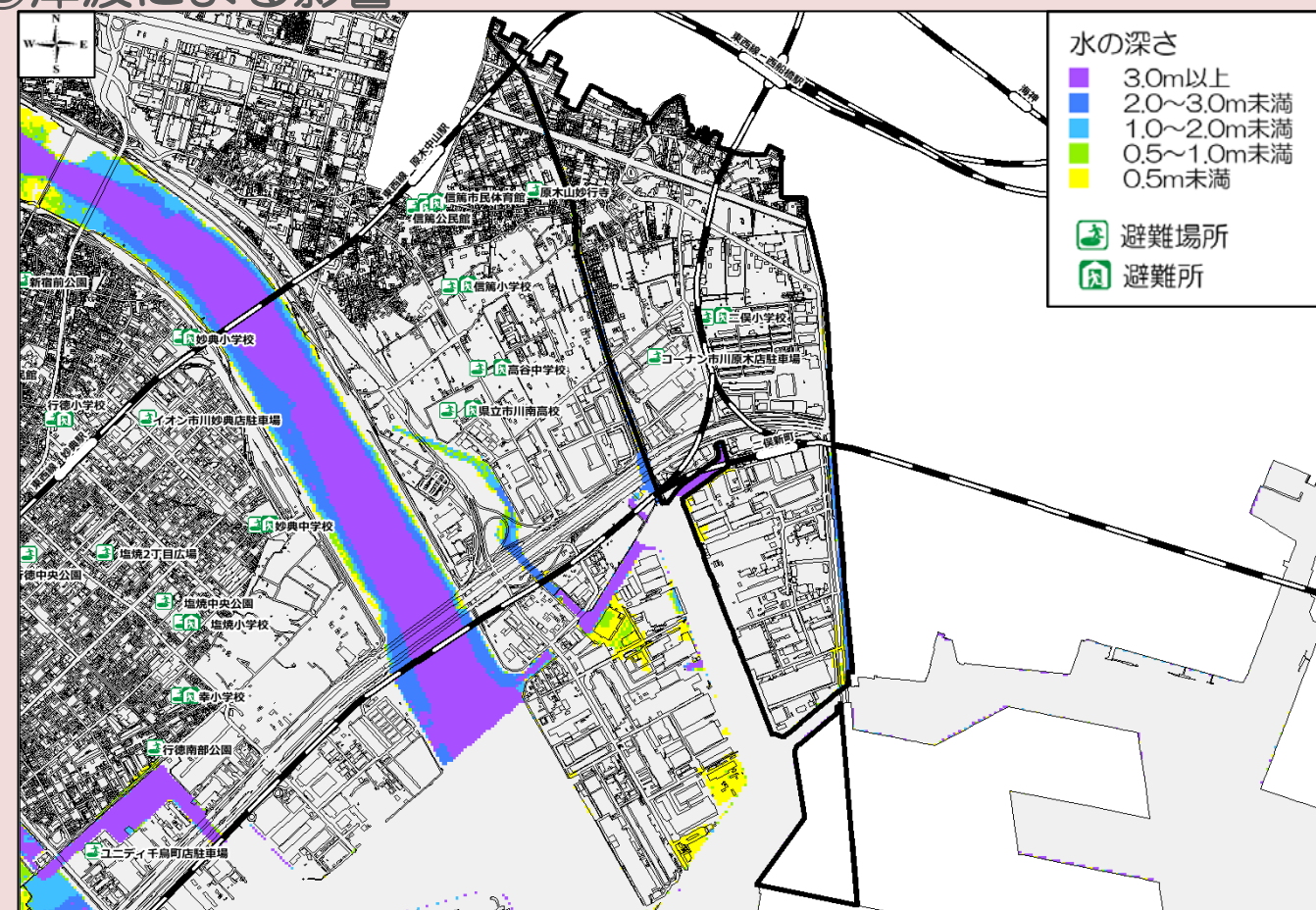
- 水の深さが3.0m以上
- 水の深さが2.0～3.0m未満
- 水の深さが1.0～2.0m未満
- 水の深さが0.5～1.0m未満
- 水の深さが0.5m未満

## 浸水の目安



※浸水の凡例区分及び配色については市川市で任意に設定しています。

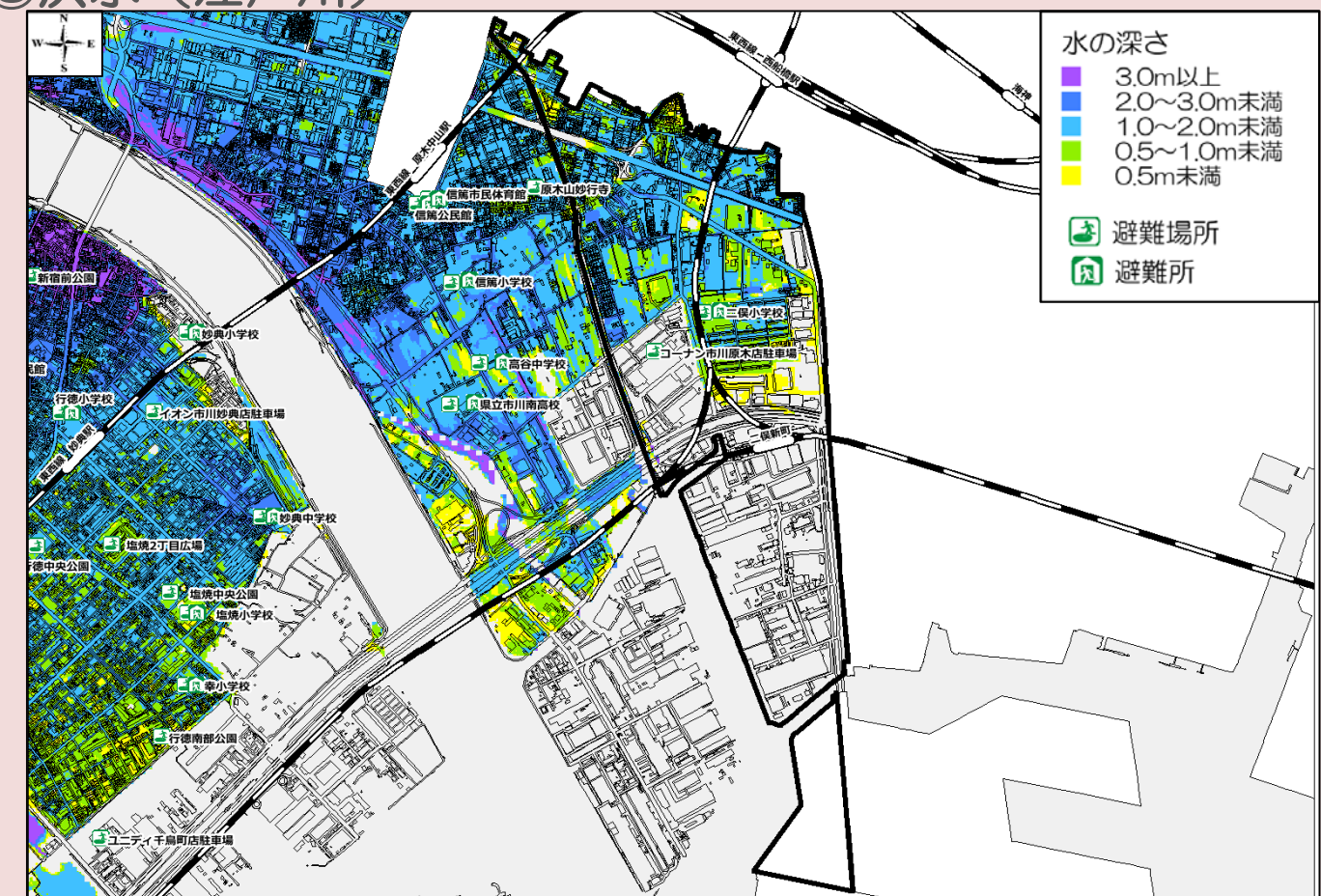
## ⑥津波による影響



※津波の河川遡上による市街地への影響はありません。

平成24年4月：千葉県

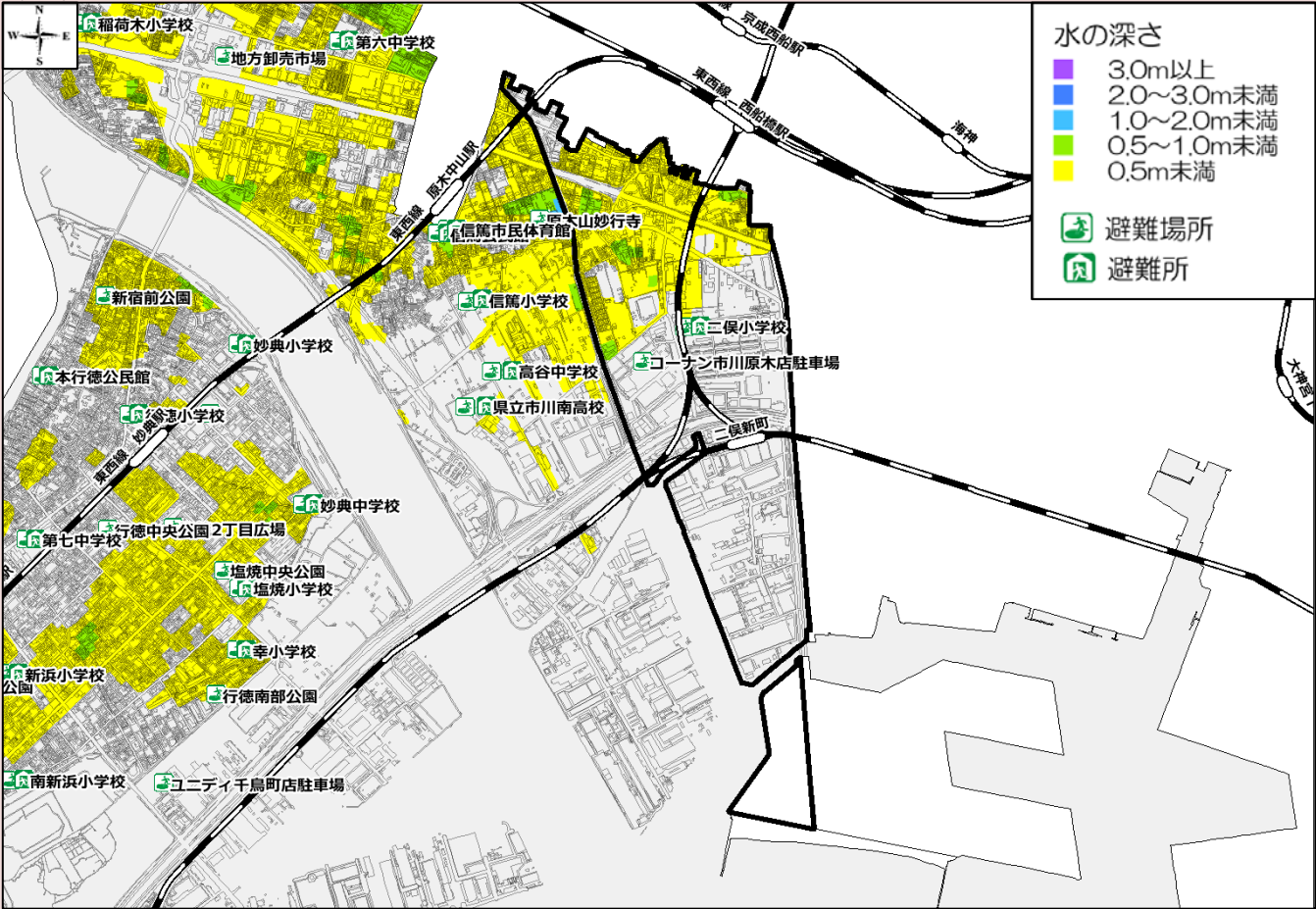
## ⑧洪水（江戸川）



平成29年7月：国土交通省

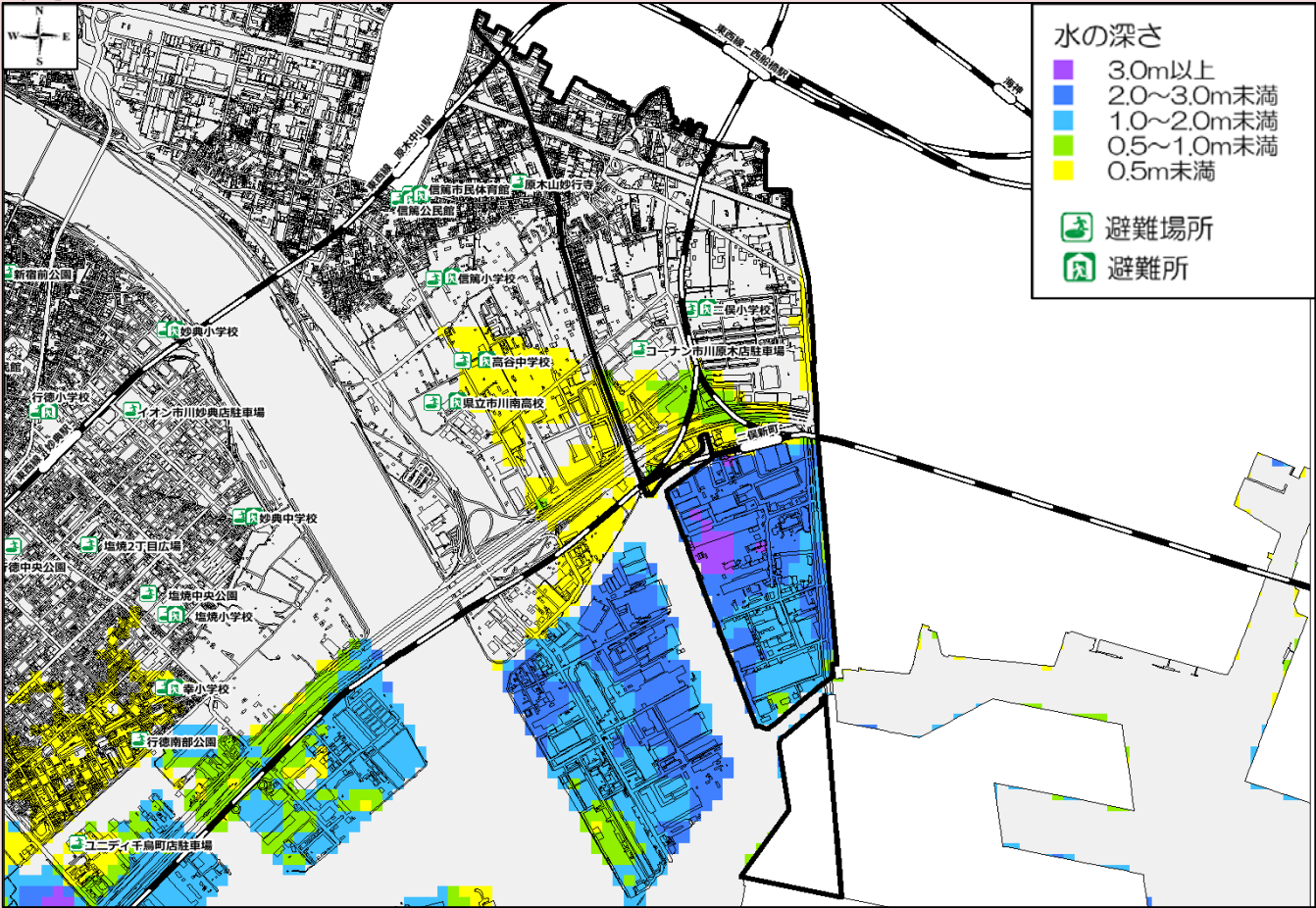


⑨真間川水系・内水氾濫



平成18年3月：千葉県、市川市

⑩高潮



平成21年4月：国土交通省

◆メモ

Blank area for notes.

